


「学生のおもしろ企画・大学祭企画」実施報告書

※整理番号：2

企画名	オリジナルフォーミュラカーを作ってみよう
実施日	令和5年11月4日(土)～令和5年11月5日(日)
実施場所	広島大学西体育館
企画代表者の氏名, 所属	氏名：牛場 清志 所属：工学部1類
構成員の氏名	安井 豊人、周 峻皓、黄 朝陽、安田 遥稀、山田 凌右、牛場 清志、大本 健斗 久保 虎太郎、檜垣 諒、岡田 康誠、岩崎 薫、奥瀬 友太、富永 颯斗
指導的立場の教員氏名	難波 慎一 
企画の目的及び内容	我々の学生フォーミュラの活動を知ってもらうとともに、自動車の設計や仕組みに興味を持ってもらい将来のものづくりに役立ててもらおう。また、工作教室を通して自分がデザインしたオリジナルフォーミュラカーが形になることで、ものづくりの楽しさ、大変さを体験してもらおうことを目的とした。 内容としては、我々が使用したまたは現在使用している型のエンジンや外部指導員の先生のアドバイスを参考に我々のデザインを完成させたオリジナルフォーミュラカーの体験。我々が設計

「学生のおもしろ企画・大学祭企画」実施報告書 (裏面)

アンケートの結果 (来場者にアンケートを実施した場合のみ)

成果・課題

今回の企画は、HUESさんとスペースを共有して行うことができたので、鳥人間コンテストの活動に興味をもって来場してくれた方に、我々の活動を知ってもらう良い機会になった。来てくださった方との会話の中で、車がお好きな方はいても、我々の活動を知っている方は広島大学の学生以外はいなかったもので、認知度があまりない我々の活動を知ってもらえる機会になったことが、今回の最も大きな成果であった。同じ日に我々が作成したマシンの試走会を行っており、その試走に興味をもっていただけることもあり、我々のモノづくりに興味を持っていただけではないかと感じた。

課題としては、まずミニフォーミュラについて、検証した寸法で切り抜いてもある部品はきつかったり、ある部品は緩かったりするなどした。原因としては、1つ1つの部品について寸法を設定したわけではなく、ある1つの部品のしまりばめの加減から寸法を設定したことがあげられる。また、用意した接着剤がボンドで乾くのに時間がかかったので、より速乾の接着剤が必要と感じた。待ち時間に暇を持て余している子供たちもいたので、展示物の種類を増やしたり、車についての書籍を準備したりする必要があると感じた。シミュレータについてはペダルの位置は、調整できるようにしたが、ハンドルが遠すぎる子がいるなど、ハンドルまでの距離も変えられるようにすることが課題と感じた。

実施風景 (写真)